

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社 ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)		
所在地	北海道深川市音江町1丁目3番13号		
自己評価作成日	平成 29年3月15日	評価結果市町村受理日	平成 29年5月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0197400021-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0197400021-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・町内会の老人クラブとの交流や、小学校や保育園のボランティア受け入れを毎年行っている。</p> <p>・個別の買い物や外出については随時対応をさせていただき、社会との繋がりや金銭を所持し支払いを行うことの意義を理解した上で、日常生活の一部として捉えている。また、嗜好品や必要な物があれば町内の商店に注文して揃えることも可能なため、地域と顔の見える関係作りに努めている。</p> <p>・ホーム内で『出来る事』『出来ない事』を明確にし、今まで人工透析の受け入れの実績がある。入居後は病院との連携を密に行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は閑静な住宅地にあり高速道深川インターチェンジから車で約3分、国道12号線の駅から車で約4分と交通の便は良く、近くの銀杏並木や小公園は散歩道として楽しむことができる。天気の良いときは住宅街の中をゆっくり歩き住民と挨拶を交わしながら近隣の公園へ散歩している。鉄骨3階建ての2階に2ユニットのグループホームがあり、ユニットは左右に分かれそれぞれ玄関があり、エレベーターホールは共用している。1階には介護付有料老人ホームがあり、避難訓練、行事などを一緒に行き、協力体制、馴染みの関係を築いている。3階にはイベント用のホールがあり長寿クラブの慰問などに使用している。町内会主催の焼肉会、音江神社神輿見学などへ職員と利用者が参加して地域と交流している。保育園児慰問、老人クラブへの訪問、慰問などの相互交流がある。事業所では人工透析が必要な利用者への通院支援を行い遠方からも受け入れを行っていたが、現在利用者はいないが関連医療機関とはいつでも対応することができるように関係を継続している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念は開設当初より変えず、職員が実践すべき方向性を表現し、実践に繋げている。また、自己評価を通じて、理念に対しての職員個々の反省の機会にもなっている。	利用契約書と重要事項説明書に事業所理念を記載している。事業所理念とユニットの理念があり2つとも壁に掲示し、職員は理念カードとして携帯している。不定期であるが1ヶ月に数回朝の引継ぎ時に全員で唱和して共有しケアに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の老人クラブや町内の小学校・保育園との交流、ボランティアを現在も受け入れを行っている。	町内会に加入し総会への出席要請に答えるようにしている。保育園との交流、長寿クラブからカラオケの慰問や町内会主催の焼肉会などに利用者と職員が参加交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度より管理者が変わっているため、今現在認知症関連団体の役員にはついていないため、今後対応をしていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域住民・家族・法人が参加して、多角的な視点からアドバイスをもらい、サービス向上に生かしている。	年6回開催し、町内会会長、長寿クラブ会長、家族代表、地域包括支援センター職員などが出席している。事業所運営報告、事故報告、行事などを報告して、意見や助言、質疑もあり、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議などを活用して、顔の見える関係作りに取り組んでいる。	福祉課を訪れ事業所の近況を説明、指導、助言、情報を得ている。利用者に状況変化があれば書類の継続や申請などで助言アドバイスを受けている。深川市主催の地域ケア会議に出席し情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしているが、入居者の状態等によっては一時的に施錠する場合がある。身体拘束による心身の弊害は理解している為、入居者の状態に応じて会議を行い、入居者にとっての最善のケアに努めている。	身体拘束のマニュアルのほか随時勉強会を開いて身体拘束をしないケアに努めている。今後は定期的に勉強会を開催するようにしている。行動抑制の言葉があれば管理者は都度注意をするほか職員同士で注意できるような環境を作っている。職員の見守りと出入り口にセンサーを配置し、夜間は巡回とナースコールで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で口答で伝えるなど、常に全職員が意識して防止に努めるようにしているが、外部研修の機会が少なく、今後の課題である。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用するケースは今現在ないが、制度の内容を理解している職員はいるがわからない職員もいるため、今後の学ぶ機会を持っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見等は一部の家族しかないが日常的な訪問の際のリラックスした雰囲気の中で近況報告や相談を受けれるように努めている。	利用者とは日々の会話や動作、表情から読み取るように努めている。意見箱の設置のほか 家族来訪時には会話の中で意見や要望を聞き取るように努めている。意見、要望は連絡ノートに記入し引き継ぎ時に全員に発表して共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に管理者を窓口にし、日常的に意見や疑問などを聞いていただき、本社へ伝えていただいている。必要な物品などの購入など少なからず運営に反映している。	個別面談は行っていないがいつでも管理者に相談や提案、気付きを話すことが出来る環境を作っている。職員の提案で利用者の状況変化により柔軟にタイムシフトの変更ができるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じて介護員の勤務状況等を本社に伝える等して把握に努めている。また、休みやシフトの変更など現場で話し合いながら柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無料、有料を問わず、研修の案内を告知しているが、個々の意欲に任せている部分が多い。順番に参加できるようにしていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は認知症関係団体の役員会議に参加できていないため、徐々に参加し、意見交換などの機会を作っていく。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学をしてもらい、必要に応じて面談を行うなどして、入居後の混乱や不安の解消、スムーズなケアに繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で概ね聞き取ることで、常に相談できる雰囲気作りや関係確保に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取った情報を元に、ケアの方向性や方法を話し合い、支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その時々本人の気づきや心遣い等を大切に、共に感謝の気持ちをもてるような関係が築けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族から話しをしてもらい思いを引き出すなど、家族にしか出来ない支援がある大切さを伝え、共に支える関係を築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様自身から希望を言葉にする為、それに合わせてスタッフが対応し、馴染みの場所や知人との交流(電話・手紙・外泊等)を続けていけるよう努めている。	理容及び理髪は月1回の訪問があり専用の理髪室を使用する他美容院への送迎支援をしている。買い物などは利用者の都合に合わせて要望に添えるように努めている。面会者にはゆっくりと会話ができる環境を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様自身の気づきや思いやりから起こす行動を大切に、個々の関係性を把握した上で座る位置などにも配慮し、努めている。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は接点なくなる為、相談や支援には至っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々によって言葉や表情・態度などから思いを汲み取り、把握などに努めている。	入所時のアセスメントシートで把握しており日々の生活から新たにわかった事はケース記録簿に記入して職員全体で共有している。困難なときはスタッフミーティング会議で取り上げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴は、必ず書面にしてスタッフ間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕方の引継ぎで話し合ったことを連絡帳に記入するなどして、常に現状を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族から聞き取った情報やスタッフ間で共有している情報を元に現状に即した介護計画を作成している。	利用者には担当者を決めており介護計画は利用者及び家族の意向を反映させ、短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直しを行っている。介護計画を利用者家族に説明し同意印を得ている。状況に変化が有る時は直ちにケアマネ(介護計画作成者)はサービス担当者会議を開き、全員で意見交換を行い介護計画書を作成する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と併用して連絡帳も活用し、気づき等の情報を共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブへの参加やヤクルト販売などホームと繋がりがあがる社会資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居前にかかっている病院への通院だが、病状や症状により別の病院にかかる等、適切な医療を受けられるよう努めている。	利用者、家族の意向に添って、今までのかかりつけ医に受診し、事業所職員が同行して診察記録を作成している。要望があれば家族も含めた同行受診に配慮している。利用者の要望により内科医や歯科医の訪問診療も受け入れており予防接種は当時業所で職員を含め行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置しておらず、必要に応じて電話での相談や通院をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	暮らしぶりや認知症状、またその対応方法等も情報提供している。また、認知症状により予定より早く退院してしまった場合でも、通院で引き続き治療を受けられるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学の段階で看取りをしていないことを説明し、介護が可能な範囲を説明し納得を得ている。また、状態によっては改めて説明をして理解を得ている。他施設への紹介には至っていない。	入所時に利用者、家族に文書と口答で当事業所で出来るサービス内容と範囲を説明し同意印を得ている。利用者に医療行為の発生や食事の摂取など状況変化が有る時は早い段階で家族と主治医を含め相談をするように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	概ね訓練は受けれているが、定期的な実施とまでは至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内での避難訓練を実施しており、各利用者の誘導方法など話し合いを行っているが、今後も継続に努めている。	1階の併設施設に総括防火管理管理者を置いて年1回法人グループとして合同で避難訓練を実施している。今回は非常階段を利用して1階の集合場所までの避難誘導訓練を実施した。	災害はいつ起こるか分かりません。いざという時に慌てず確実な避難誘導が出来るよう年2回以上の避難訓練の実施を望む。総括防火管理者と事前の打ち合わせで消防計画や訓練内容を協議し、訓練終了後は全体で訓練結果を検証して問題点を把握することや、関連書類の記録、保管など総括防火管理者と連携を持ちながら共有することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等の羞恥心が伴う場面では同姓介助の対応など事前の声掛けや小声で声掛けする等の工夫に努めている。	名前の呼び方は利用者の要望に沿うよう配慮している。利用者の人格に敬意を払い尊厳を守り馴れ合いの中から来る言葉使いには特に注意をするように努めている。職員全員は不適切な言葉があればその都度お互いに注意をするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の嗜好や生活歴、ホームでの暮らしぶりなどを総合して判断し、本人本位に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課などは決められておらず、穏やかな時間の流れに沿って個々のペースを大切にしている。外出の希望があれば柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	翌日に着る服を数着用意してご本人様に選択してもらったり、理美容については、パーマ・カラーリングなど希望に沿って対応している。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けの一連の流れの中で各利用者様が活躍できる場面を演出しており継続に努めている。	食材は本部で手配し、調理は利用者に合わせて形状や味付けをしている。利用者は状況に合わせてできる範囲で調理に参加している。誕生日などにはおやつに反映するよう配慮している。季節に合わせた行事食や要望があれば外食などにも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分など1日トータルで考え、身体状況やご本人の希望に応じてお粥や嗜好品の提供、形態の工夫に取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努めており、必要に応じて歯科往診・通院で義歯調整や口腔衛生の維持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットやリハビリパンツを使用しているだけにとらわれず、時間でトイレでの排泄に努めている。また、オムツについては安眠の為の対応として使用の場面が限られている。	排泄パターン表、表情や態度に気をつけ、職員は利用者のパターンを把握しておりサインや合図を見逃さないように努めている。時間が来れば目立たない声掛けをしてトイレ誘導を行い排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後のトイレや個々によっては乳製品を摂取していただく等して、自然に排便に繋がるよう努めている。下剤服用者については、排便の状況に応じて量を調節している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯の固定はあるが、最低週2回の入浴ができるようにし、個別に音楽を流す等してリラックスした環境作りに努めている。	入浴剤の使用や環境を整えることで会話を通じて利用者の思いや意向を聞く事ができる。入浴は利用者のタイミングに沿うように配慮している。要望があれば同姓介助としており、車椅子利用者は複数介助で入浴するよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後問わずその時の体調や気分に合わせて休息をとってもらっている。また、夜間の睡眠に支障がないようにも配慮し、中途覚醒の際は混乱が起きないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬については概ね把握しており、いつでも確認できるようにファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	信仰している宗教の継続、朝刊の継続など入居前からの生活習慣を大切にできるよう支援している。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいときにタイミングとし、業務や職員の調整を行いながら、戸外に外出できるように努めている。	日常の散歩としては近隣の公園へ職員が同行している。条件が整ったときは滝川市菜の花公園などへ出かけている。利用者の高齢化や介護度が上がることにより事業所全体での行動が難しくなり外食やショッピングなど個々の要望に寄り添えるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者に限られるが、金銭の支払いを行っている。また、必要に応じて支払いがスムーズにいこう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って自由に電話を掛けられるようにしている。希望に応じて手紙を出す支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は適度な生活音が響くように配慮し、不快や混乱を招かないよう取り組んでいる。	リビング、廊下は広く大きな窓からは十分な採光を取り入れる事ができる。テレビは全員で見ることができるようテーブル、ソファを配置している。蓄熱式暖房機を使用して空調の管理は適正に職員が行っている。廊下には全面に手すりがありリビングの壁にはシンプルながら利用者作品を掲示し落ち着いた生活感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に相談室があるが使用していない。共用スペースにすることが主である。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込む、使うことの必要性を見学の段階で説明し、可能な限り持ち込んでもらっている。	居室は11㎡ほどあり蓄熱式暖房機、カーテン、ナースコール、洗面台、ベッドが備え付けとなっている。ベッドは利用者が持ち込む事も可能で、整理タンス、仏壇、テレビ、ソファなど馴染みのものを持ち込んで、写真、人形などを飾り居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しい入居者については、ユニット内での「トイレ」「自身の食卓席」などはわかるように工夫している。		